



## 女性の割合が少ないのはおかしい

**松岡** 男女共同参画の話になると、男性は引いてしまうことが多々ありますが、今日は本音で語りましょう。男性の働き方がスタンダードで、女性はそれに近づける。子育てや家事などは暗黙のうちに女性の役割になっているケースが多いですね。信州大学の女子学生の割合は工学部 9.9%で最も少なく、次いで理学部 22.4%、繊維学部 23.5%、最も多いのは人文学部 62.3%、次いで教育学部 51.8%ですから、工学部はダントツに少ない。どうしてだと思いますか？

**藤澤** 幼少期に工学的なことに触れる機会が女性は少ないと思います。学校教育以前に親の影響があるんじゃないでしょうか。ラジコンとか女子はやらないですから。

**不破** 入学して半年くらいまでは、教室に入ったとき男子ばかりでしたが、慣れましたね。学部の際は女子が5人、院にきたら女子は私一人。先生が女性で救われたというのはあるけど、逆にみんな優しくしてくれる、といういいところもあります。

**箕浦** 僕は、女子が少ないことに対してなんとも思わないです

ね。高3で理系を選んだ時点で男子だけのクラスでしたし。  
**松岡** 私はそこをを考えてほしいんです。日本はこのアンバランスをずっと続けていっていいのかな。

**市田** 僕は教育学部で、女子が半数以上だけど平等とは思わない。まず、男の家庭科の先生がいないのはなぜなのでしょう。ごく僅かいるとは思いますが、工学部の女性数と同じで、男女共同を進めて行くのにこれでいいのかな、と思います。僕は社会科学なのでジェンダーや法律のことも扱うのに、社会科は圧倒



学生8人で  
考えてみた

# 「男女共同参画」 ってなんだ？

「男女共同参画」って英語でどういうか、知ってますか？  
ジェンダー・イクオリティ(Gender Equality)といいます。  
ジェンダーとは社会的文化的につくられた性差のこと。  
社会がつくった「男らしさ」や「女らしさ」の中には  
性差別や偏見につながるがあるので、  
それを見直して平等にしましょう、  
ということが、男女共同参画の基本になります。  
今日は、みんなで「男女共同参画」について話しましょう。



司会/松岡英子教授

### 藤澤 彰宏

総合工学系研究科博士課程1年

女性が社会進出しないことによって、さらに女性が進出できなくなる悪循環が発生してる。これを断ち切るためにポジティブアクションが必要なんだ



### 不破 みのり

理工学系研究科修士課程1年

ジェンダー・イクオリティって、ポジティブ・アクションも取り入れてイコールにするんだということがわかってよかった。学校、会社、家、全部をひっくりめた取組みがあればいいよね。



的に男性が多い。議論していても偏ってるな、と思うことがあります。小学校の教師の割合は男女半々ぐらいなのに、校長や教頭は圧倒的に男性が多い。おかしいですよ。能力で男女にそんなに差があるわけじゃないのに。

松岡 そうですね。

市田 でも、ゼミでその議論をしているとき、「女性がそういう生き方を選んでいるからだ」という意見が9割を占めてしまっ



たんです。数が少ないと女性であっても男性の意見に流されてしまうんだあ、と思いました。

松岡 男性は「女性がそうせざるを得ない」とは考えてない。男性だけだと切り口を変えた発想が生まれづらいのかもしれない。

## 信大のポジティブ・アクション

松岡 私は工学部に女子学生をもっと入れたほうがいいと思っています。

藤澤 それはなぜ？

松岡 多様性が大切なんです。工学部のように女性が1割を切ってる状況では、女子の意見が男子の考え方に押されてしまうし、考えも画一的。そうなると、研究だけでなく、キャンパスライフの面でも偏ってしまう。優秀な女子に入学してほしいですね。どのぐらいの割合だったらいいとみなさんは思いますか？

市田 半々ですかね。

中島 私の高校は2：1ぐらいで女子が多かったんですが、

やっぱり女子のほうが強くなっちゃうんですよ。だから半々ぐらいがいいと思います。

藤澤 工学部の中では男性女性の議論が発生しないので、僕は9対1でも違和感はないですね。女子も、この割合を承知の上で入ってきているから気にする必要もない。

松岡 じゃあ、女子の割合が3割ぐらいになったらどう？

藤澤 少し遠慮しますね。

松岡 信大で4年前に男女共同参画事業を始めたときは、女性の先生は全学で11.9%でした。学部によってもまちまちで、医学部保健学科は半分くらいが女性でしたが、女性ゼロの学部があったんです。繊維学部です。今は女性の先生が3人になりました。どうやって増やしたと思いますか？

市田 この学部に入れば育児手当がありますよ、とか。

松岡 でも、みんなが育児をしているとは限りませんよね。

市田 じゃあ、最初から女性を募集するとか。

松岡 その通り。女性限定の募集をしたんです。それがポジティブ・アクション。国は女性優遇措置が法に違反していないことを定めています。



## まずは男性女性がお互いを知ることから

古川 今、社会的に女性が働きにくいのは、企業の上のほうにいる人たちが古い考え方で育ってきた人たちだからじゃないでしょうか。その世代がいなくなって僕らが上の立場になったときに、今の状態を改善できるように伝えていくしかないんじゃないかと思います。

松岡 時間がかかるけど、それまでは待つしかない？

### 中島 萌

教育学部4年

小学校の女子だけの性教育あったけど、あれも男女いっしょにやればいい。まずは男性も女性も基本的なことを理解しておくべきだね。



### 市田 祐基

教育学研究科修士課程1年

男性も女性もいろんな人がいるのだから、エリートだけを指さなくてもいいと思う。大切なことは、お互いを認め合って、それぞれの自己実現を考えていくことじゃないかな。



### 張 馨予

教育学研究科修士課程2年

中国では入社ときに女性は3年以内に結婚しない、5年以内に出産しないと会社と約束させらる。でも、こういう慣習を見直して、さまざまなバリアを取り払っていききたいですね。



### 箕浦 航

理工学系研究科修士課程1年

工学を本当に学びたい女子がいても、女性がないから入ってこれないとすれば、知らないうちに女性の可能性の芽を摘んでいたのかもしれないね。



古川 う～ん、それは時間をかけて学校教育などでもやっていく必要があるんじゃないかな。それと現状の工学部では女性と対話の機会が少ないので、学外のいろいろな催しなどに参加するのもいいですね。

中島 私は、みなさんと話していて、男性も女性も自分のやりたいことをやって幸せに暮らしていくためにどうしたらいいのかを考えていくことが大事だと思う。家庭環境がすごく大きいけど、自分では気づかないことに気づかせてくれるのが学校だと思うので、学校で子ども達同士でたくさん話す機会ができればいいな、と思いました。

松岡 子どもの時から学校で、ということですね。大学生はどうです？

中島 小学校の時に女子だけで受けた生理の授業の内容を男の子たちは知らなくて、大学のヒューマンセクシャリティの授業で初めて知ったという話を聞いてとてもびっくりしました。もしかしたら女性のことをよく知らないまま大学生になっている男性もいるのかも。ジェンダーについて考える前に、そういうこと、まずわかってないとね。

張 ジェンダーの授業を必修にするといいですね。

## 女性が少ないから女性が進出できない、悪循環を断ち切る

藤澤 男女共同参画って「ジェンダー・フリー」だと思ってたら「ジェンダー・イクオリティ」ということだったんですね。僕は、ジェンダー・イクオリティを進めていくのは大事だってわかってはいたけど、その理由がよくわからなかった。そこが一番の問題だった。



松岡 それで、どんなことがわかったのかな。

藤澤 女性が社会進出しないことによって、女性が社会に進出しづらくなっている。そういう悪循環を断ち切るためには、本質的なポジティブ・アクションが必要なんだな、ということがわかりました。

松岡 断ち切れない悪循環を断ち切っていくということね。

藤澤 男性に比べて女性には自己実現の手段がすごく少ないんじゃないか、と思います。

松岡 いまは世界中、男性が動きやすい社会になってるから女性の自己実現のチャンスは閉ざされてしまっていて、その中でスキルアップするのは難しい。

藤澤 僕は今日、このことに気づけたことがとてもよかった。みんなの意見が聞けるこういう場こそ実は本当に必要なんだと思います。

松岡 今、日本の一流企業はジェンダー・イクオリティやダイバーシティにとっても敏感になっています。女性だけでなく、障がい者や高齢者を活かしている。鈍感な企業は今に落ちこぼれていくんじゃないでしょうかね。

箕浦 ジェンダー・イクオリティって政府が言うから必要なの

かな、ぐらいに思っていたんだけど、みんなの話を聞いてたら、工学を学びたい女子でも学部女子が少ないから入らないという悪循環になっていて、それが芽を摘んでいる可能性があるのかなって思いました。この認識が広がって、自分が学びたいことを学べるようになって、それが日本中に広がったら日本は素晴らしい国になるんじゃないかな。

松岡 そうね。たとえば「男らしくしなさい」って言われたら「やるぞー！」って思うけど「女らしくしなさい」と言われたら押しつけられてる気がするでしょう。ジェンダーを学んだら、「らしく」ということを、受け取り方も考えずに軽々しく口にしてはダメですね。

## お互いを認め合うところから自己実現が始まる

柳澤 今日みんなと話して、自分の中にもジェンダーの差別的な考えがあったことに気づきました。社会的には男性が優遇されることが多いんですけど、例えば「飲み会プラン」などで

### 古川 真士

理工学系研究科修士課程1年

男性と女性の対話の機会って少ないよね。特に工学部はむずかしい。今日みたいな機会をもっと増やしながら、僕たちが企業の上の立場になったとき社会を変えていくしかない。



### 柳澤 希美

教育学部3年

男性が育児休業取ろうとしても、社会的に「お前休むのか」という空気があるよね。だから、男性側をバックアップすることが女性へのバックアップにもなるんだと思う。



は女子会のほうが安いプランもあって、そういうの男子は気になってたんだな、ということにもびっくりしました。

松岡 女性専用車両とかね。

藤澤 男性専用車両がほしいです(笑)。

柳澤 男性へのバックアップも同時に進めて行くほうがいい。

松岡 確かに男性がかわいそうなところもあるよね。

柳澤 たとえば育児をやりたくても、社会的に「お前、育児なんかで休むの」みたいな風潮もあります。と考えると、男性へのサポートもすると、それが間接的に女性へのバックアップにもなるんだ、と感じました。

松岡 男性も女性も、思い込みの部分があるのかもしれないね。でも意外に話をしてみたら理解できる、そういう気づきがとっても大事ですね。

市田 男女共同参画の「共同」のなかにもいろいろあって、女性でもエリートになりたいという人もいれば、専業主婦になりたい、パートでいいという人もいる。男女共同参画を進めるからといって、エリートの女性だけをモデルにするのは、むしろ女性を抑圧する結果になってしまう。だから、目の前にいる人に対して「何を望んでいるの?」「何を実現したいの?」というように、それぞれの自己実現をかなえていけばいいのかなって。1年の共通教育で聞いた“Im OK, and You are OK”という言葉がキーワードかな、と思います。

松岡 認め合いですね。

市田 教育現場に行ったら少しずつ自分にできるところからやっていこうと思っています。

松岡 信州大学では、男女共同参画に取り組み始めてから、なるべく授業の中でジェンダーの視点を入れてくださいとお願いして、シラバスにも掲載しています。最初は23ぐらいしかなかった授業が、いまは161にまで増えています。

張 私が普段、日本で感じている男女の不平等は、女性の就職が難しいということです。それは、日本も中国もあまり変わらない。女性は昇進しにくい、出世しにくい、管理職の比率も低い。企業トップの意識改革は、絶対必要だと思います。男女共に働きやすい環境をつくるのも大事ですね。中国では、女性が入社するときは、3年以内に結婚しない、5年以内に子どもを産まないという約束をさせられます。女性には厳しい。そういうハードルを見直して、女性も自立できる社会をつくらなといけなと思います。

不破 参加するまで、男女共同参画って男性と女性が協力してやっていくことなのかな、と思っていましたが、逆に女性をガーンと上げていかないとイコールにならないんだよ、ということがわかってよかったです。個人的に何ができるのかわかりませんが、こういう場で自分の意見を言うことや、学生同士だけでなく、学校や企業や家庭をひっくるめて取り組みができればいいんじゃないかと思いました。

Special Thanks!



## 座談会を終えて

男女共同参画の推進や女性の活躍促進が重要な課題として取り上げられることが多くなっています。政府は「働く『なでこ』大作戦」を展開し、女性の活躍の場を広げて、社会経済の活力アップを目指しています。少子高齢化による労働力人口の減少を補う存在として、女性を「これまで活かしきれていなかった最大の潜在力」と捉えています。

また、女性に期待するのは、単に不足する労働力の確保という側面だけではなく、イノベーションを促進させる環境として、「多様な人材の活用」が重視されていることが挙げられます。性、年齢、国籍、障がいの有無などの違いを尊重して、多様な価値観をもつ人材を活用し、多様な視点を活かすことが新しい価値の創造につながるという認識が広まってきました。多様性(ダイバーシティ)推進の第一歩は男女共同参画だといえます。

さらに、女性が働きやすい環境を整えることは、長時間勤務などの男性の働き方を変えることにつながります。育児も介護もしながら働ける環境をつくることは、女性だけではなく男性にとっても重要になりつつあります。

ジェンダー・イクオリティを推進することは、多様性を尊重した社会を創ることです。国は、2020年までに指導的な立場の女性を少なくとも30%にしようという「2020年30%」という目標を掲げていますので、みなさんもいっしょに考えていきましょう。

